

特集テーマ：資質・能力を育成する教育課程

国立教育政策研究所では、これからの社会で求められる資質・能力の育成に向けた教育課程の在り方に関する研究を平成21年度より継続して実施してきた。

最初のプロジェクト研究「教育課程の編成に関する基礎的研究」（平成21年度～平成25年度）では、これからの社会に求められる資質・能力を整理し、それらを育成する教育課程の在り方について基礎資料を提供した。その成果を踏まえ、プロジェクト研究「資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する研究—目標・内容、指導方法、評価の一体的検討」（平成26年度～28年度）では、求められる資質・能力の精緻化・系統化を図るとともに、教育目標・内容・評価の一体的な検討によって資質・能力を育成する教育課程の実現に向けた課題を明らかにすることを目指した。

本プロジェクト研究では、資質・能力の育成に向けた諸外国の教育課程改革の動向や近年の学習理論の成果を踏まえた学習方法の分析、我が国の先進的な取組の実態把握などに基づき、資質・能力を育成する教育課程の在り方について、複数の選択肢の提供と実践上の課題の抽出に努めた。それらの成果の一部は、文部科学省に設置された「育成すべき資質・能力を踏まえた教育目標・内容と評価の在り方に関する検討会」や中央教育審議会における学習指導要領改訂に向けた審議においても基礎資料として活用されている。

本特集は、これらのプロジェクトの研究成果を整理するとともに、資質・能力を育成する教育課程の実現に向けた諸課題や今後の方向性について論じたものである。内容は、三つの柱で構成されている。第一に、資質・能力を育成する教育課程の在り方についての理論的検討、第二に、具体的な実践や個別教科等におけるカリキュラム開発の分析、第三に、今後の方向性への示唆である。

第一の柱、資質・能力を育成する教育課程全般について、まず松尾論文「21世紀に求められるコンピテンシーと国内外の教育課程改革」が、今日、世界の学校教育においてコンピテンシーの育成が注目されるようになった背景を整理した上で、知識基盤社会において求められる資質・能力とそれを育成する諸外国の教育改革の動向を明らかにするとともに、新学習指導要領を資質・能力育成の視点で分析し、コンピテンシーを育成する教育課程の問題点や課題を分析している。

次に、西野論文「人格教育と資質・能力」では、求められる資質・能力として情意や社会性に関するスキルなど人格形成に関わる資質・能力が重視されるようになっている現状を踏まえ、我が国でこれまで実践されてきた人格教育について、資質・能力育成の観点から問題点や課題を明らかにし、新たな人格教育の可能性を提起している。

三つ目の白水論文「評価の刷新—『前向き授業』の実現に向けて—」は、資質・能力の育成という教育目標を実現するための授業理論として「前向きモデル」の意義を明らかにし、その授業デザインを支える評価の在り方について検討している。本論文は、資質・能力を育成する教育課程の在り方に関する上の二つの総論と以下の三論文で取りあげる具体的な教科等における教育課程や授業デザインに関する検討を架橋する役割を担うものである。

次の三つの論文では、具体的な授業実践や教科等に注目して、教育課程の在り方を検討している。

まず、後藤論文「学びの過程と問題解決力の育成における効果的な取組の事例—国内先進校の取組から—」では、資質・能力の育成に取り組んでいる国内の小・中学校の実践を、本プロジェクトで検討・提案した資質・能力を育成する授業づくりの原則をもとに分析している。

松原論文「国際的な視点からみる理科の目標の枠組みと資質・能力の特徴」では、新学習指導

要領における小中学校理科の枠組みや目標で示された資質・能力について、国際調査である PISA2015 に示された科学的リテラシーの枠組みや諸外国における科学カリキュラムと比較しながら、我が国の理科教育における資質・能力の特徴を明らかにし、今後の理科教育の課題を論じている。

福本論文「ICT リテラシーと資質・能力」は、21 世紀に求められる資質・能力のうち ICT リテラシーに焦点を当て、ICT リテラシー等に関わる社会の変化、ICT リテラシー等をめぐる能力目標の変遷、諸外国における ICT リテラシー等の教育の動向、といった ICT やそのリテラシーをめぐる基礎・実践研究を整理している。

最後の二つの論文は、資質・能力を育成する教育課程の今後の方向性を論じている。田熊論文“Preliminary Findings from the OECD Education 2030 project”は、OECD 諸国が現在進めているカリキュラム改革の動向を踏まえ、新たな方向として「コンテンツ・コンピテンシー統合型」モデルに着目している。また、キー・コンピテンシーの枠組みの更新に向けた OECD の新たな取組（E2030 プロジェクト）の一貫として、コンピテンシーの測定評価に関するプロジェクトの概要を紹介している。

石井論文「資質・能力ベースのカリキュラム改革をめぐる理論的諸問題－教育的価値を追求するカリキュラムと授業の構想に向けて－」では、資質・能力ベースのカリキュラム改革の危険性と可能性を検討し、それを踏まえて、資質・能力ベースの改革をめぐる問題の本質を原理的に検討し、その可能性の部分を目指すための実践的見通しを提起している。

なお、本研究プロジェクト研究の成果に関するより詳細な報告は、報告書として刊行されている。また、成果の一部は、『国研ライブラリー 資質・能力 [理論編]』（国立教育政策研究所 2016）としてまとめられている。合わせて参照されたい。